

歩き甲斐のある 14.2km

「なめがた白浜」コース 茨城県

北関東のパーマナントコースも近年閉鎖が相次ぎすっかり寂しくなりました。その中で、地元の熱意の結晶で今もまだ元気に存続しているコースの1つ、茨城県なめがた白浜コースを紹介します。

「なめがた白浜」コース 14.2km 38 ポスト
茨城県 No.16 JOA 公認 No.527

フリーポイントのコース

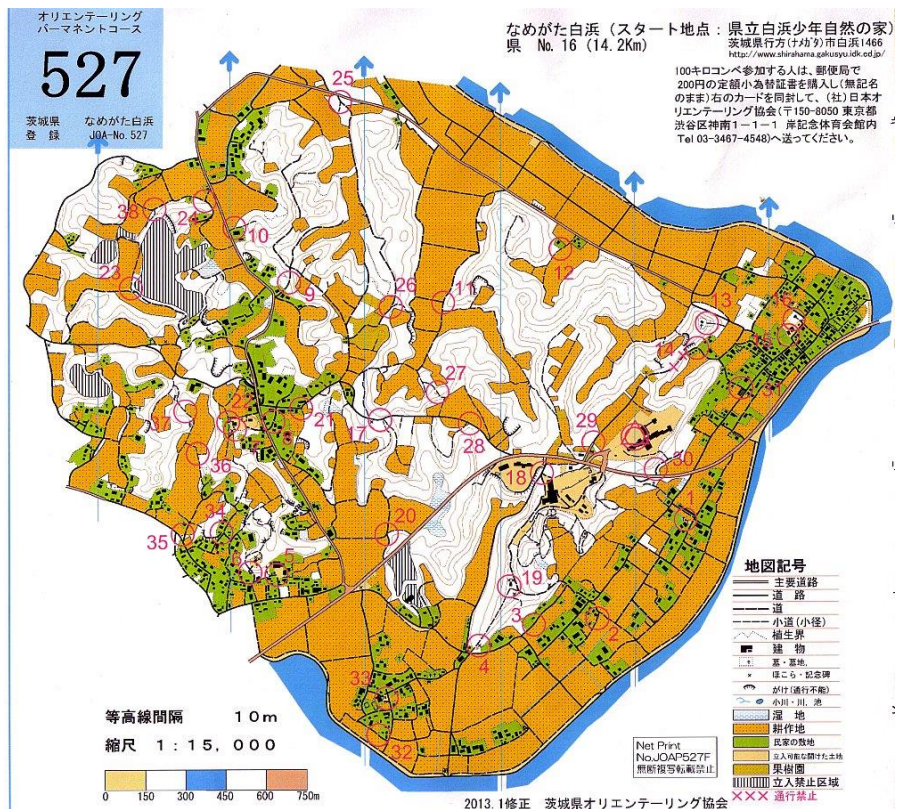
昭和55年の開設当時は旧町名である「麻生」コースと名乗っていました。私が踏破したのはちょうど10年後の平成2年の秋のこと。案内板は倒れ、ポストの劣化も目立ち始めていました。その後一時期、スタート地点の白浜少年自然の家が管理する全37ポストのスコアOLのコースに組み込まれ、公認パーマナントコースとは異なる形態で引き継がれていました。平成17年には麻生町が北浦町、玉造町と合併し行方市が誕生。そして、スコアOLコースがすべてパーマナントコースとして公認されるに至り、コース名を現在の市名を採用して「なめがた白浜」に変更されています。現在のコースは従来の37ポストに1か所追加されて全38ポストのフリーポイントです。従来の麻生コースは19番～28番を回ることのできる体験が可能です。



白浜少年自然の家

本来なら長期遠征をしたいゴールデンウィーク。今年は家の都合で叶わず、選択肢は日帰りコースに限られます。そこで、1年振りに土井洋平氏にお声掛け。前日に突然連絡したにもかかわらず快諾のうえ、車にも同乗させていただきました。

土浦に朝8時に集合し、1時間ほど



で白浜少年自然の家に着きます。四半世紀ぶりの再訪で、当時の写真を持参して今昔比較をさっそく楽しみます。かつて駐車場にあったミニポストも芝生に倒れていたPCの案内板もすでにありません。近くで作業をされていた職員の方に声をかけられ利用者名簿に記帳をしたのち、ネットプリントで持参したマップを使ってさっそくスタートします。

フリーポイントですから、予め綿密にコース組みを考えておかないと無駄なルートチョイスやポストのチェック漏れが発生しかねません。出戻りを極力を少なくしたうえで最短経路となる回り順を設定し、土井氏と申し合わせでまずは29番に向かいます。

コース全般に大きな高低差はないものの、細かなアップダウンは盛り込まれています。少年自然の家も高台にあり、歩き始めは下り坂です。マップの記号記入欄には位置説明もあり、参考にしつつ最初のポストを探します。研修にも使われることを考慮してポストの設置位置はいたってシンプル。道端

であっさり小型のポストを発見します。最近もメンテナンスを行ったようで、年季の入ったポストも使用に耐える状態を維持しています。

茨城県女性プラザ「レイクエコー」入口前を西に向かい、2年前前に閉校になった大和第三小学校前でタンポポに囲まれた18番ポストをチェックします。

次に選んだ19番ポストは「麻生」コースの1番ポスト。親切にも「ナイトハイク、OL、ウォークラリー順路」と記された道標に従って林間に続く里道を進むと嬪野(よめの)神社に到達します。境内にあるポストは記号こそ以前のままですが、若干移設されたようで当時の写真と異なる場所に立っています。普段は無人の神社ですが、創建は西暦809年と伝えられ、3月に例祭が開催されています。

参道入口で4番を、つつじの咲く道端で3番を順調に確認します。右手には水を張った水田が広がっていて、ちょうど田植えの真っ最中。青々と育った苗を苗箱からトラクターに積み替え

る光景や、整然と植えられていく工程眺めながらのOLはこの時季ならではのもの。都会では体験できない生の学習材料が整っています。古い道祖神のある丁字路を右折し、2番ポストをトタン張りの廃屋の前で見つけます。

北浦を望みながら水田地帯を歩き、道端で32番、近くの観音堂で33番を続けてチェックします。

道路を渡り、麻生の第2ポストだった20番は25年前とほぼ変わらぬ景色の中にたたずんでいます。

次に選択した5番からしばらくポストの密集するエリアに入ります。5番は龍翔寺の境内にあり、20番から最短路をたどろうと西に向かうと、ポストの直前で道が途切れていることを土井氏が発見。南側からぐるりと回り込み、境内に到着します。



観音堂と33番

山門からも見えるポストをチェックし、続く6番は八幡神社参道の途中です。分岐が地図の印象と異なりますが、石段を登っていくと年季の入ったポストが待っています。

出戻りでくんだり、民家の間を抜ける道を北に向かうと、ナウマンゾウの化石が出土したという地点に差し掛かります。昭和56年に出土したという化石は少なくとも15,000年以上も前のものだそうで、現在は県立岩井自然博物館に寄託されています。すぐ近くで34番を、分岐の股にある建物横で35番を発見します。

山間のきれいな田園風景に癒されながら道端にある36番、37番を続けて確認すると、次は麻生の第4ポストの22番に向かいます。途中北側から回り込む小道は土砂崩れのため大きく削れ、緑を慎重に進む必要に迫られます。無事クリアするとフェンス越しに立つポストが見えてきます。以前は神社の社殿近くにあったのですが、現在改修中ということもあってか、移設されています。そして目と鼻の距離にある7番は雷(らい)神社の前。日本武尊ゆか

りの神社で、雨を降らせてくれる祖神として農家から広く信仰されているそのです。

道端の8番を確認後、麻生の第3ポストの21番へ。25年前の写真とほぼ同じ景色の中に立つこのポスト。すぐ横に電柱があり、当時の写真には麻生町出身の政治家額賀福志郎氏のポスターが掲示されています。その後、防衛庁や経済企画庁の長官、外務大臣を歴任することになりますが、この時はまだ46歳。今の私と大差ない年齢ですが、当時のポスターからも大物政治家の貫禄が漂ってきます。



麻生コースの最終ポスト28番

ポスト密集エリアを抜け、道路沿いの17番、麻生の最終ポスト28番、同じく第9ポストの27番、北に向かって田園地帯で11番を確認します。このコース唯一の問題箇所がここから26番へ向かうルートです。最短路の小道がふさがれ、通り抜けることができません。麻生コースの地図は農地改革以前のものです。当時の記録からも難なく通り抜けられたようです。今はその入口の痕跡すら見せず、南側に大きく迂回することにします。丘の上に通じるルートは一見平坦に見えるこのコースの中では一気に登ると息の切れるところ。突き当りを北に向かい、梅の果樹園を抜けると麻生の第8ポストの26番に到達します。ポストを見守るようにそびえていた背の高い樹木も今は伐採され、空の領域が多く感じられます。下からは分からなかったルートはここからは容易に見つかります。ただし、通る人もないようですぐ先から荒れ始めており、廃道となっています。

丘を下り道端の9番を見つけ、麻生の第7ポストの23番まではルートの分りにくい区間を経由します。主要道路のカーブの先から西に向かい、民家脇から林に入ると小道がほぼ消滅します。通行可能な林の中を進むとまた小道が復活して事なきを得ますが、ベテラン2人して一瞬現在位置を見失うほどです。分岐の先で23番をみつけ、新たに組み込まれた38番へは地図上では

ルートが途切れています。山裾をたどって抜け出し、38番と麻生の第7ポストの24番、道路から小道を入った奥にある10番を順調に発見。コース北端を走る道路と小道の分岐近くにある麻生の第7ポストの25番まで来ると、旧麻生コースの10か所は終了です。

道路から出戻りで12番、同じく出戻りで愛宕神社にある13番をチェック。愛宕神社へは最終盤でのアップダウンになり、力を振り絞って階段を登りません。稲荷神社で16番、成光寺で15番、道の曲りで14番、分岐の手前で31番とテンポよく進み、残るはあと2つ。

出戻りを避けるため、1番へは白浜側からアプローチします。途中、白浜ウォーキングセンターがあり、パンフレット類を頂戴します。ここを起点に「白浜ふるさと自然のみち」が3コース整備されています。パーマネントコースとの重複も多く、フリーポイントではなくこうした指定のコースを複数設定することで、再訪を促すことに繋がり、土井氏は早くもその構想の実現に向けて動き始めそうな勢いです。小さな社横で1番を見つけ、少年自然の家への遊歩道の入口で最後の30番を確認します。ほぼ廃道に近い小道と階段を上り、所要5時間50分でのゴールとなりました。14km以上は軽く歩いた計算です。

好天だったゴールデンウィーク

帰りにお目当ての行方バーガーを求めて「行方市観光物産館こいこい」を訪ねたものの、すでにこの日の販売は終了。そでは行方井だと、サイトを頼りに「食べ処わたなべ」へ向かい、17時の開店と同時に入ると、扱いがないと言われがっかり。すっかり空腹だったので土井氏は天ぷら、私はかき揚げの御膳を頼むとこれが大当たり。運転を土井氏に任せ、大ジョッキも頼んで流し込むと体に染み渡り、疲れが吹き飛びます。

帰りの電車では真っ赤な顔になっていましたが、これは晴天の下6時間近く歩いた日焼けです。

(2015年5月3日 踏破)